



「報告」

～ 令和3(2021)年度 通常総会を終えて～ 「コロナに負けない」

常務理事 久保田 邦彦

5月19日(水)15時～17時茅ヶ崎市商工会議所2階会議室において通常総会を開催し、第1号議案、令和2(2020)年度事業報告・第2号議案、令和2(2020)年度収支決算および監査報告・第3号議案、令和3年度(2021年度)事業計画の基本方針および事業計画・第4号議案、令和3(2021)年度収支予算、の四議案が、益永議長の進行により審議され、全て承認されました。

さて、昨年来コロナ禍という厳しい社会情勢が続いております。そんな中であってちがさき市民活動サポートセンターの関係者、会員の皆さんが、それぞれの英知と工夫で厳しい状況を乗り越えるべく力を尽くされ、結果、確かな手応えを得て、本年に引き継がれていると率直に感じました。また参加の皆さんによる素晴らしいスピーチの機会があり、皆さん、日頃の思いを語り、コロナに負けるなどの発言もあり、私自身大きく心を揺さぶられました。



皆さん、日頃の思いを語り、コロナに負けるなどの発言もあり、私自身大きく心を揺さぶられました。

サポートセンタ



一運営について、5年間の委任事業、初年度のスタートです。2022年にはサポートちがさきが創立20周年を迎え、本年度はその準備に入ります。大きな節目に相応しくポイントとなる事業の質疑が、活発になされたこと大変有意義であったと思います。

本総会のオンライン参加者5名、会場参加者15名、委任状13名、サポートセンター職員含めオブザーバー参加7名(オンライン参加3名)でした。オンライン会議システムを組み合わせるに当たり、事務局および関係者の皆さんの様々な配慮のおかげもあり、この総会が、心新たに、そして暖かい気持ちに包まれ終了したことをご報告致します。

今後とも様々な事業に積極的にご参加を頂く事を心よりお願い申し上げます。

「さぽちが」の「ビジョン」に思うこと

永島 雅美

「このまちを愛し、よくしていこうという人たちがもっと元気になって、一人ひとりが支え合う誰一人取り残されることがない幸せな社会に変えていくことが私たちの願いです」

これは、「さぽちが」のビジョンで、さぽちががどのような社会を創りたいのかを述べたものです。

さぽちがの今年度事業計画の基本方針の一つとして、SDGsの目標達成のための活動推進を謳っています。そのSDGsの基本理念は、まさしく「誰一人取り残さない」

です。さぽちがのビジョンを具現化している直近の事例の一つとして、2020年4月から始めた「おでかけ支援」がそうですね。これは、神奈川県共生社会仕組みづくり外出支援モデル事業として、交通手段がない高齢者等の買い物や通院などの外出を、地域住民がボランティアとして運転手や添乗員を務める活動を併走支援しています。



< 2021(令和3)年度 事業の動き > 会員自身の強みを生かし、
一人ひとりの思いややりたいことをカタチに

永島 雅美

コロナ禍により市民活動団体やNPOが運営や活動・事業に大きな影響を受けながらも多くのことを経験し学んだ。例えば運営・活動上のコミュニケーション手法としてWeb会議は必須ツールとなった。またSDGsの目標達成のための動きも加速してきている。来年創立20周年という節目を迎えるにあたり、次世代につなげる活動を進めて行く。先行きの見えない中、変化する状況を把握しながらNPO支援の情報の収集と発信に努める。

茅ヶ崎市民活動サポートセンター管理運営事業

“市民の力で地域や社会が支えられている実感がもてる社会”の実現に向けて、市民活動の発展と自立を支えていく。「共感」「参加」「多様性」を重視して、市民の力が発揮できるように「市民が主役のまちづくりの拠点」の運営に全力を尽くす。



自主事業

中間支援組織として地域生活に必要とされるNPOの存在意義が見える化し、よりよい社会にしていく当事者が発揮できるよう取り組む。また、NPOのマインド(精神・思考)とツール(スキル・ノウハウ)を合わせもつ人材を呼び込めるように事業の充実を図りつつ、市民、企業、大学、行政の協働による新たな価値創出に努める。創立20周年という節目を迎える準備の年と位置づけ、関連事業の推進に努める。

事業名		連絡先	今年度の事業計画方針
コミュニティ形成を支援する事業	まちスポ×さぼちが連携事業	益永 律子	「まちスポ」と連携・交流を深め相互の組織運営力、信頼度を高める。
	お出かけ支援事業	佐野 初美	湘南地区の住民による「お出かけワゴン」の自主運行を伴走支援する。
	余暇支援ネットワーク	森 早苗	コロナで取り残されがちな障がいのある人の外出支援もできるような活動の新たな方向性を検討する。
協働によるまちづくり推進事業	企業とNPOのマッチング	北川 哲也	企業とNPOの協働のイメージを共有しつつ、相互理解を深め具体的な事業構想へと仕掛ける。
	食から未来へ勉強会	久保田邦邇	地域農産品について基礎から勉強することを通じて新しいネットワーク及び人材を発掘する。
	地域コミュニティ勉強会	久保田邦邇	NPO、中間支援組織のあるべき姿につき、外部協力者と連携し、市民活動のエンパワメントを図る。
	SDGsネットワーク事業	小山紳一郎	農・福・商の連携により、地域課題の解決に向けた人的ネットワークづくりを推進する。
会員向け・その他の事業	会員向け情報紙「ハーモニー」の発行	永島 雅美 佐々木里子	会員、サポーターズの親睦を深め、事業を共有し、“さぼちが”の活動に寄与する(年4回発行)。
	仲間づくり交流会 @RIVENDRL/全体会	佐野 初美	コミュニティ農園の利用、同好会活動などを通し親睦を深める/全体会により会員の交流を図る。
	情報発信・HP・SNS	永島 雅美	情報発信し会員の拡大を図る。
	20周年記念事業	永島 雅美	さぼちが創立20周年記念事業の検討・準備。
	(仮称)子どもファンド準備会	益永 律子	「こんなまちにしたい」という子どもたちの思いや願いをかなえるために、まちづくりの活動を応援する仕組みを設立する準備を行う。

◎「関心がある」「チョットのぞいてみたい」という方は、ご連絡をお願いします。

◆◆◆ 連絡先(事務局 佐野) : 080-6255-7546 / sapochiga70@gmail.com ◆◆◆

2019年度から湘南地区で運行している「おでかけワゴン」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一時期運休しましたが、検温や消毒などの感染予防対策を徹底し、乗車を予約制にすることで運行を再開しています。

週に一度の買い物支援が主ですが、今では重要な生活の一部となっているようで、帰りの車内にはぎっしりと荷物の詰まったカートが並びます。

さらに2020年10月



からは別ルートで、今宿地区のマンションからの直行便を月2回土曜日に試験運行しています。

一か月あたりの利用者の延べ人数も60人から90人へと増加しており、着実に地域に根ざした活動に育ちつつあります。コロナ禍にも負けず地域でボランティアを募り、住民同士が協力しあい自分たちの力で課題解決していく活動が継続、さらには発展していくために、会員の皆さまの力をお借りしながら、今後もさぼちがは協力していきたいと思えます。



《創立20周年記念》 写真で綴る、あの日の「さぼちが」「サポセン」2002年

(画像は、市広報番組より)



工事中のサポセン



オープニングフェスタ(4/14)



オープニングフェスタ(4/14)



サポセン未来予想図3分'ルースピーチ



窓口相談コーナー 作業コーナー 掲示コーナー レターケース



利用者数 開所4ヵ月で3千人に



プレイルーム 情報コーナー リースハウス ホームページ



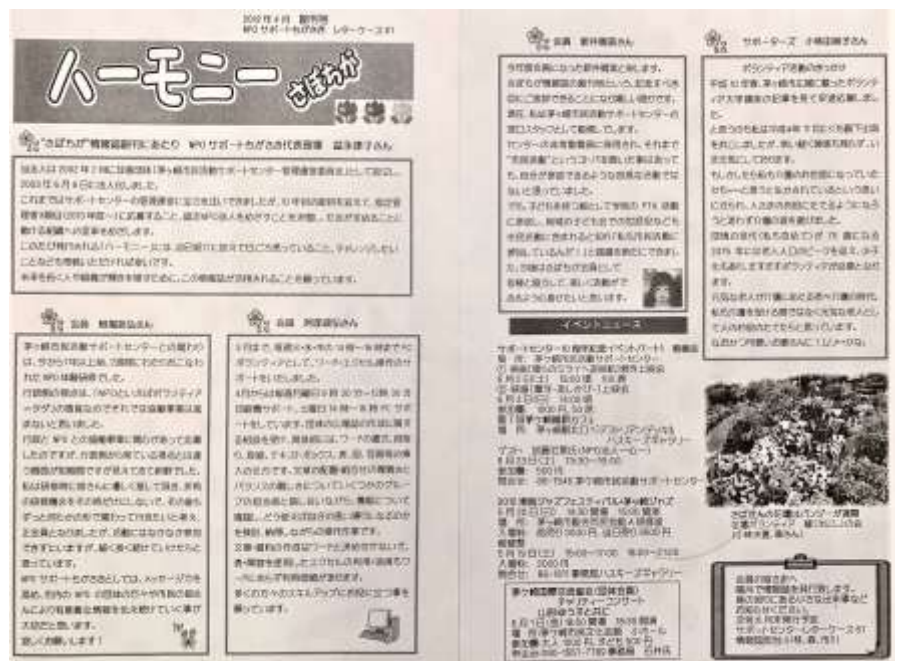
管理運営委員会全体会の様子(7/17)



管理運営委員会全体会の様子(7/17)

さぼちが情報紙『ハーモニー』は、さぼちが、サポセンが創立されて 10 年目の 2012 年 4 月に創刊されました。ちょうど、さぼちががさがさき市民活動サポートセンターの管理運営に全力を注ぎ 10 年目の節目を迎えて、指定管理 3 期目に応募すること、認定 NPO 法人を目指すことを決意し、社会が求めることに動ける組織への変革を目指していた頃でした。

紙面では、会員・サポーターズの紹介に加え、日頃思っていることやチャレンジしたいことなどをサポ



セイイベント情報などと共に紹介。市川悠紀子さん、小林孝男さん、森早苗さんが編集を担当されていました。

《 報 告 》 茅ヶ崎精神保健ボランティアグループ 凡樹瑠さんからの預り金

NPO 法人茅ヶ崎精神保健ボランティアグループ 凡樹瑠さんが 2014 年度解散するに伴い、同法人からさぼちががお預かりしていた寄付金 50 万円の残金 208,800 円を、2021 年 4 月に以下 2 団体に等分寄付を実施しました。これで、さぼちがが凡樹瑠さんからお預りしていた寄付金は振込手数料等含め、ハトフルひまわり (2015 年 10 月 7 万円, 2016 年 11 月 5 万円, 2018 年 1 月 7 万円)、こころのフリースペース ポレポレ・ちがさき (2020 年 11 月 10 万円) の 4 団体に寄付されました。今年お渡しした 2 団体の活動をご紹介します。(画像は、団体のホームページ、FB 等より)

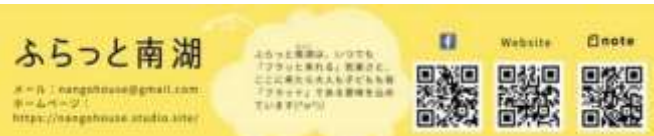
ふらっと南湖 (子ども・若者の応援、里親活動等)

子ども・若者を中心に安心安全な居場所を提供し、社会的養護の現状を学ぶ勉強会や里親希望者マッチング事業、孤育で解消事業、地域文化交流事業を通じて里親や社会的養護へのハードルを下げ、みんなで育ち合えるコミュニティ創りの活動をしています。



ママほぐ (お母さんの居場所づくり、産後ケア等)

子育て中の母親を支援する交流会「ママほぐ」。茅ヶ崎市浜見平地域を中心に活動。「コロナ禍でも子どもは生まれます。ますます孤立が進んでしまうママたちのために、子育て中のママがほっと息抜きできる居場所づくりのお手伝いと産後ケアをしています。



日頃顔を合わせる機会が少ない正会員・賛助会員の皆さま方の交流を図るためのコーナーです。

お訊ねした事項 ※回答を控えたい質問にはお答えいただかなくて良いことにしています。

1. ご出身 2. 趣味・特技 3. 2.で、最も熱中している趣味・特技について ・何年くらいなさっていますか？ ・どんなところが楽しいでしょう？ ・自慢されたいこと ・目標・今後のご予定 4. 好きな季節 ・その理由は？ 5. あなたにとって大切な「物」 6. 好きな食べ物 7. 好きな飲み物（お酒以外） 8. 好きなお酒 9. 好きな音楽 10. 座右の銘／好きな言葉 11. 尊敬する人物 12. ストレス解消法 13. どちらかと言えば、好きなのは？「デジタル・アナログ」「自然・人工的」 14. その他ご自身のことで、ご紹介されたいこと

加藤 晃子さん

賛助会員
サポセンスタッフ

- 秋田県
- 登山、ウォーキング、ヨガ、料理
- 登山 6年
 - ・体を動かして汗をかくこと。
 - ・1日に40000歩 30kmを歩くことができた。
 - ・北海道・九州の山を登ること。

4. 夏(理由：寒がりだから)

5. ①主人が作ってくれた革製キーケース



②主人が作ってくれた初孫のファーストシューズ



③母がプレゼントしてくれたネックレス

- 栗、パン
- コーヒー
- カクテル
-
- 食べばわかる
- 樹木希林母
- トレッキング
海辺を走る
料理をする
- 自然
-



加藤 浩一さん

正会員
サポセンスタッフ

- 茅ヶ崎市
生来61年茅ヶ崎の土着民で、サザンの桑田佳祐氏の小中4級後輩です。
入会の動機は、サポセン利用時にスタッフの方々に親切に対応して頂いたので。
- 水泳、ウォーキング、俳句、町の食堂・中華巡り
- 俳句 6年ほど：金がかからず気軽に楽しめ、自然に親しめ、教養を深められるところ。
ウォーキング 6年ほど：毎日欠かさず1万歩以上歩いています。
- 秋(理由：その陽気に心身ともに癒されるので)
-
- 鰻、すし、麺類、レバニラ炒め、カレー、長ねぎ
- 野菜ジュース、コーヒー、日本茶、炭酸水
- 焼酎
- サザンは「好き」というより地元の先輩として応援しています。
- 人間万事塞翁が馬、ケセラセラ
- 養老孟司氏の言動には敬意を表しています。
- オンオフの切替え、快食快眠快便
- アナログ、自然
- 支援が必要なお子さんのしごと体験を巡る地域啓発「わ・ちがさき」というボランティア活動を行っており、サポセンでもその職場として受け入れて頂いています。



『厳しくても居場所』

今年も凡樹瑠(ぼんじゅ-る)からの寄付金を役立てていただき、本当に有難うございます。

NPO 法人茅ヶ崎精神保健ボランティアグループ 凡樹瑠は、社協のボランティア講座から生まれました。茅ヶ崎地区コミセンの開館をきっかけに、精神障碍を持つ方の就労準備の場として、喫茶「凡樹瑠」を運営し活動させていただきました。当初、精神障碍は法定雇用率に含まれず、コミセンという一般の場所での活動に心配もありました。でもそれは全くの杞憂でした。

喫茶の活動は十数年続けましたが、残念ながらグループは解散。その折、事業継続のための蓄えの一部をさばちがさんへ託しました。

今年ご縁のあった活動は居場所づくりのようですね。喫茶「凡樹瑠」も社会的居場所の一つだったと思います。自己肯定感や安心感を得られる人間関係と場、それが成長や安定につながると考えてきました。凡樹瑠での仕事は厳しいと言われましたが、根底に信頼があったからこそです。継続できなかったことは残念ですが、メンバーさんの笑顔を思い出し、どうか今が幸せでありますようにと祈るばかりです。

賛助会員：東ヶ崎 房子

『守りの暮らしの中で私が始めたこと』

コロナ渦で私たちは守りの暮らしに大きく変化しました。自分を守りながら相手をも守る。マスクをして手も洗う。密を避ける。これまで誰も経験したことのない出来事だ。過度な不安が付きまとうがその反面解消する術を持つきっかけにもなったと思う。私が始めたことは生活に変化をもたらす事だった。
・毎日運動する・花壇の模様替え・家の中の片付け・新しい趣味を持つ・SDGsを考える、そして地域の活動始動等々。

花壇は母が大好きだったジニアやダリアなど数種類補植した。温もりを感じる。そして生活改善が目的の片付け。40年以上かけて溜まった品々の内 80 品程手放した。1 点も捨てることなく譲ることが出来た。

又「地球を笑顔にする WEEK!」が注目を集めた。私が始めた事はみつろうラップ。水洗いして繰り返し使えるので、地球にも優しい。そして SDGs のマークを使ってエコバックを作る準備をしている。それを持って買い物に行こう！

最後に地域活動。今年度は管理組合、来年は自治会の活動と続く。あまり気乗りしなかったがスタートしたらなんだかワクワクしている。私の担当は環境整備。ぴったりだ。無理なく頑張ろう！

会員：堀江 貞子

～こぼれ話～

コロナで「思考停止」せず、
コロナを「言い訳」にせず

今年、総会に参加して「コロナ禍のなか“当たり前”や“常識”を疑い“発展的破壊”につなげる」「コロナ禍による社会の変化をこれからの行動に生かしていく」という思いを強くしました。「コロナ禍のなかでもできることは何か？ オンラインで何ができるか？」—そこに改善や改革のヒントがありそうです。「コロナだから」を言い訳にせず、この変化を逆に生かし、柔軟に対応していきたいと思いました。

～会員募集～ 市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与するという目的をご理解いただきご入会ください。入会のお申込みは佐野までお願いします。

～会費情報～ 入会金なし
年会費＝正会員：3,000 円/賛助会員：2,000 円



今後の主な活動 (予定は変わることがあります)

- 理事会：毎月1回(原則)
 - 20周年プロジェクト会議：毎月1～2回
 - 第1回地域コミュニティ勉強会：7月9日 15時～
「茅ヶ崎の農業の現状と課題-コロナ禍の先を見据えて」
- ※理事会、勉強会とも、原則オンライン方式併用

編集後記 さばちがは、2022年4月に創立20周年を迎えます。この『ハーモニー』も来年、創刊10周年。創刊号の巻頭言にある「ハーモニーが未来を拓く人や組織が輝きを増すために活用されること」を改めて噛み締めています。